

～Chacott Web Magazine DANCE CUBE 連載

「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」関連企画 I ～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

# vol. 61

## バレエ・リュス 公式プログラム

展示期間 /  
2017年4月27日(木) ～ 2017年6月14日(水)

構成 / 森瑠依子  
展示 / 関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

「薄井憲二バレエ・コレクション」の中でも、最も充実している分野の一つが、セルゲイ・ディアギレフが率いたバレエ・リュスの公演プログラムです。1909年から1929年にわたって西ヨーロッパと北南米で活動した名高いバレエ団のシーズンごとの公式プログラムが50冊弱、公演当日のキャストなどが記載されたハウス・プログラムが185点ほど集められています。特に公式プログラムの表紙は、レオン・バクスト、パブロ・ピカソらによる美しい舞台衣装のデザインが採用されているものが多く、当時の舞台の華やかさを垣間見ることができます。

### <初のパリ・オペラ座公演の公式プログラム>

1910年6月、バレエ・リュスの活動2年目、初のパリ・オペラ座公演の公式プログラム。全48ページ。「コメディ・イリュストレ」誌の特別号という形で出版されている。表紙はレオン・バクストが美術を担当した『シェエラザード』より、スルタンの衣装デザイン。レパートリー、メンバーリスト、上演作品のあらすじ、スターダンサーの写真などの他、レヴィヨンの毛皮、パキヤンのドレス、ルノーの自動車、高級レストランといった富裕層向けの広告が多数掲載されており、当時の流行を知ることができるのが楽しい。

レパートリーは初演の『シェエラザード』『火の鳥』『レゾリアンタル』、前年に続いての『饗宴』『ポロヴェツ人の踊り』『クレオパトラ』など、古い時代のエキゾチックな物語が中心で、前年と同様に高い評価を受けた。1841年にこの劇場で初演された『ジゼル』も上演され、優美なカルサーヴィナと人気抜群のニジンスキーがすばらしい踊りを披露したが、今まで見たことのない斬新な作品を求めている観客の反応は今ひとつだった。

### <パリ・オペラ座公演の公式プログラム>

1919年12月～1920年2月のパリ・オペラ座での公式プログラムで、表紙はパブロ・ピカソによる『三角帽子』の衣装デザイン。全54ページ。1年前に第一次世界大戦が終結し、バレエ・リュスもヨーロッパでの活動を再開して、マシーンが精力的に新作の制作に取り組んでいた時期にあたる。華やかな舞台衣装姿のダンサー写真のほか、ピカソによるレオニード・マシーンとアンドレ・ドランの肖像、ピカソの『三角帽子』とドランの『不思議な店』の舞台幕デザインなど、新作の興味深い画像が多数掲載されている。このシーズンのレパートリー14作には、3つめの新作『うぐいすの歌』、および『真夜中の太陽』『上機嫌な婦人たち』といったマシーンの代表作に加え、『シェエラザード』『レ・シルフィード』『ポロヴェツ人の踊り』などフォーキン振付の定番作品が含まれていた。

### <ロンドン・アルハンブラ劇場『眠り姫』公式プログラム>

1921年11月2日よりロンドンのアルハンブラ劇場で上演された『眠り姫(眠れる森の美女)』の公式プログラム。全30ページ。表紙はバクストの衣装デザイン画で、中のページにも多数の衣装デザイン画が掲載されている。ディアギレフは1890年のマリンスキー劇場での初演時から『眠れる森の美女』に夢中で、この豪華な古典バレエを外国で上演することを夢見ていた。その夢をついにロンドンでかなえ、半年以上のロングランを計画していたが年末には客足が落ち、1922年2月4日にシーズンを終了せざるをえず、多額の借金を負って衣装と装置を差し押さえられてしまった。しかし上演をあきらめきれなかったディアギレフは『眠れる森の美女』を全1幕の『オーロラの結婚』として改訂し、5月にパリ・オペラ座の舞台に載せる。この短縮版のほうは大成功で、1929年のバレエ団解散の間際まで、200回以上にわたって上演されるほどの人気作品となった。



Chacott Web Magazine 【DANCE CUBE】連載中  
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」  
(text 森瑠依子)



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用